

洋書輸入協会会報

VOL. 19

NO. 3

(通巻 215 号) 昭和 60 年 3 月

理事会報告

1 月 28 日(月)

(一) 洋販社長渡辺正廣氏の挨拶

新社屋落成ならびに移転完了について挨拶があった。

(二) 紙袋

洋書交換委員長服部貞夫氏(国際書房)の調査と提案により、洋書祭で使用するためJBIAの名称入り紙袋を作製することが承認され、必要な会員には実費で頒布することとした。

(三) 新年会

1 月 8 日(火)に開催された新年会には88社217名の出席者があり(その他に招待者3名)、一名当りの経費は¥9,300であったことが武田全弘氏(三洋出版貿易)から報告され、収支の不足分は予備費および文化厚生委員会費から支出することが承認された。

(四) 家賃・管理費の値上げ

本年一月から事務所(8.5坪)の家賃¥87,000を¥98,000に、管理費¥14,000を¥18,000に、合計¥101,000から¥116,000に値上げするとの通告があり、これを承認した。

(五) 職業別電話帳

従来JBIAは「書籍商」として分類されていたが、今回「同業者団体」として分類されるよう申しこむこととなった。

(六) ダイレクトリイ1985

本年は昨年よりも早く出版されること、広告が54ページとなること、ダイレクトリイ委員長石内茂吉氏(東光堂書店)から報告された。

(七) 定時総会

日程について打合せた。

(八) その他。

2 月 12 日(火)

(一) 12 月分・1 月分収支計算・予算対比表

総務委員会で検討された結果にもとづき松井幸雄氏(丸善)から報告され、承認された。

(二) 60 年度予算

3 月 20 日の総務委員会で原案を作製し、3 月後半の理事会で審議することとなった。

(三) 定時総会

会場と日時を決定した。

(四) 第22回医学会総会

この総会についての情報が報告された。

(五) その他。

理事会報告…………… 1	海外ニュース…………… 7	総代理店ご案内…………… 7
Book Review No.105 …… 2	来日外人名簿…………… 7	広告…………… 8
昭和59年1月—12月洋書輸入 通関統計とその分析…………… 3	書籍展示会のおしらせ…………… 7	
	おしらせ…………… 7	

井尻千男著「出版文化 夢と現実」

四六判 469頁 59年7月刊 牧羊社 1,900円

本書は、昭和53年1月から、58年12月までの6年間に、日本経済新聞の読書面に掲載されたコラム「とじ糸」をまとめたものである。

日付と小題のついた、一つのコラムは約千字で、凡そ1頁半だから、読み易いし、又、拾い読みにも適している。

私は、このような本でなければ出来ない読み方をしてみようと、終りから逆に読んでみることにした。いわば、短いタイムトンネルを潜るような試みをしたわけである。

例えば、58.3.20の記事は「フォーカス、特異の文体」という見出しで、同誌が『飛ぶ鳥を落とす勢いで伸びており』115万部に達したと報じている。タイムトンネルを溯って行くと、57.12.12に「離陸したフォーカス」という記事にぶつかる。部数も60万部となり『フォーカスは離陸したな、上昇気流に乗ったな、という実感をもった』と書かれているが、それから一年程前になると、56.10.25に「フォーカス、創刊の意味」として、新しい写真ジャーナリズムとしての、同誌の創刊が論じられている。

このようにして、出版の小さい歴史を見てゆくと、僅か数年の間に、まことにさまざまな事柄が起こり、そして消えていったことが判り、時の流れの早さを今更の如く感ぜずにはいられない。

この本の、もう一つの特長は、各頁の下端約5cmが空いており、必要に応じて、そこに出版物の表紙写真とそのデータが書かれていることだ。積んどく主義の人の中には、この表紙写真をみて「アレ、この本はたしか買ったナ」と思い出すこともあるかもしれない。

各々の一年の冒頭には、その年の展望と共に、社会的な10大ニュースがあげられ、年末のコラムは、「出版界の五大ニュース」で結ばれている。つまり、12ヶ月の記事をはさんで、この両方のニュースを読むと、一寸忘れかけていたその年の記憶が、鮮やかによみがえる、という仕掛けである。例えば、昭和54年(1979)

の10大ニュースの中には、○ソ連のアフガニスタン侵攻。○英国でサッチャー保守政権の誕生。○東名高速日本坂トンネル事故、173台が炎上。等々の出来事が見られるが、一方「出版界」の方はというと、○再販制是非めぐむ大論戦。○神話をくずした八重州ブックセンター。などがニュースとしてあげられ、一寸眼をつぶって、その頃私は何をしていたかな、と考えてみるのも一興であろう。

「丸善百年史の面白さ—57.5.2」、「日本最大の書店の誕生、新築なった三省堂書店—56.2.15」、等は我々に身近な話題の例であり、「中身薄い“文化国家”—58.4.17」、「書籍委託販売制の功罪—58.8.21」、等では、詳しい数字をあげて、出版界の状況が分析されていて、なかなか参考になる。

参考になる、という点では、本文のあと、ノンブルなしの資料篇が20頁程ついているが、これが面白い。まず、各年のベストセラー20点が列記され、その内8点は表紙写真の紹介もある。次に数字で見る出版概況が、出版点数・部門別書籍平均定価・出版物の輸出入等10項目についてあげられていて、見易い参考資料になっている。

小さなこの欄で紹介しようとする、とかく事象の表面をなでることになってしまうが、何とんでも全体を支えているのは、著者のコラムニストとしての批判精神である。例えば、前記の「フォーカス現象」に関連して、58年末の五大ニュースには、『フォーカス二百万部に達す。この雑誌の予想外の大成功は明らかに出版史上に残ることだが、本来裏街道にあるべきものが表通りを闊歩している感はまぬがれない。それにしても、フォーカス調文章の他誌への瀾漫は、なんともふがいない。』というような一節があるが、このような批評がなければ、コラムとは云えないので、単なるニュースレポートの相異を考えさせてくれる一冊でもある。

(K.S./Mec.)

昭和59年1～12月洋書輸入通関統計とその分析

相 良 廣 明

大蔵省関税局から、昭和59年日本貿易統計の輸入品別・国別表が発表されたので、洋書関係の数字をピックアップして分析を試みたい。

1. 書籍・雑誌の通関価額及び数量

(表1) 昭和59年1～12月書籍・雑誌輸入通関統計表(価額及び数量)

商品名	s58 1～12月		s59 1～12月		数量 価額	
	数量	価額	数量	価額	前年比	前年比
	千冊	百万円	千冊	百万円	%	%
書 籍	13,794	20,028	14,578	20,874	106	104
雑 誌	7,734	10,921	7,739	10,707	100	98
合 計	21,528	30,949	22,317	31,581	104	102

〔注 1〕書籍は仮とじのもの、パンフレット及びリーフレットを含むが、マイクロフィルム類、新聞、絵本、楽譜、カレンダー、絵葉書などは含まない。

〔注 2〕価格はCIF又はC&Fである。(以下同じ)

〔注 3〕昭和57年6月までは、小額貨物は10万円以下含まれずとなっていたが、7月より20万円以下含まれずに変更されている。

〔注 4〕書籍は、現品入荷月の翌月の15日までに届出が行われるため、入荷より平均1ヵ月の遅れで計上されている。

〔注 5〕雑誌は、最終号が到着したと認められる時点において届出が行われるため、初号入荷時よりも約一年遅れで計上されている。

(表2) 昭和55～59年書籍・雑誌単価推移表

商品名	s55	s56	s57	s58	s59	前年比
	円	円	円	円	円	%
書 籍	1,345	1,117	1,445	1,452	1,432	99
雑 誌	1,351	1,254	1,544	1,412	1,384	98
計	1,347	1,158	1,477	1,438	1,415	98

(注) この単価には、文庫本から古本・バックナンバーまでを含むため、実用上の使用には適しない。

(表3) 昭和58～59年の上・下期毎書籍・雑誌の輸入通関統計比較表(価額)

(単位 百万円)

期 間	書籍	前年 同期 比	雑誌	前年 同期 比	計	前年 同期 比
s58. 1～6月	10,324	94	8,150	98	18,474	96
7～12月	9,704	94	2,771	100	12,475	95
計	20,028	94	10,921	99	30,949	96
s59. 1～6月	11,241	109	7,485	92	18,726	101
7～12月	9,633	99	3,222	116	12,855	103
計	20,874	104	10,707	100	31,581	102

〔分析〕s59は、書籍4%増、雑誌2%減、計2%増で、文教予算のマイナスシーリング下の実績としてはまずまずの所であろう。企業関係の景気回復がプラス要因となっている。(表3)に見るs59.1～6月の雑誌8%ダウンは、(表1)注5のように、この期間の受注ダウンではなく、もっと前の時期の受注減が影響しているものである。従ってs59.1～12月の雑誌の入荷量は、前年比僅少増と見て良いのではなかろうか。

2. 遂に輸出が輸入を追い越す。

(表4) 昭和49～59年書籍・雑誌輸入通関統計推移表(価額)
(単位 百万円)

歴年	書 籍			雑 誌			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
s49	16,843	143	100	6,818	117	100	23,661	135	100
50	17,234	102	102	9,805	144	144	27,039	114	114
51	20,035	116	119	6,151	63	90	26,186	97	111
52	23,470	117	139	8,260	134	121	31,730	121	134
53	23,023	98	137	8,650	105	127	31,673	100	134
54	21,982	95	131	9,333	108	137	31,315	99	132
55	23,018	105	137	11,049	118	162	34,067	109	144
56	19,071	83	113	8,899	81	131	27,970	82	118
57	21,285	112	126	11,052	124	162	32,337	116	137
58	20,028	94	119	10,921	99	160	30,949	96	131
59	20,874	104	124	10,707	98	157	31,581	102	133

(表5) 昭和49～59年書籍・雑誌輸出通関統計推移表(価額)
(単位 百万円)

歴年	書 籍			雑 誌			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
s49	5,875	120	100	1,772	114	100	7,647	119	100
50	5,748	98	103	1,699	96	96	7,447	97	101
51	7,605	132	136	2,128	125	120	9,733	131	132
52	8,163	107	146	2,808	132	158	10,971	113	149
53	9,031	111	161	2,916	104	164	11,947	109	162
54	9,325	103	167	3,955	136	222	13,280	111	180
55	13,889	149	248	4,915	124	276	18,804	142	255
56	16,523	119	295	5,645	115	317	22,168	118	301
57	18,671	113	333	5,900	105	332	24,571	111	333
58	20,623	110	351	5,358	91	302	25,981	106	340
59	26,524	129	451	5,841	109	330	32,365	125	423

[分析] (表4) の輸入の推移と、(表5) の輸出の推移を比較すると、s49は輸入：輸出が76：24、即ち3：1であった。それがs59には僅少ではあるが逆転して49：51になっている。s49の指数を100とすると、133：423で輸出が輸入の3.2倍の速度で増え続けている。

この逆転は一見小さな出来事のようにであるが、実は日本歴史上重大な意味を持つ。そもそも書かれたものに関する限り、日本は歴史始まって以来ありとあらゆる時代に輸入の一方通行であった。明治以降においてもやはり一方的な入超で、海外在住の日本人達に対する供給が輸出の唯一のものであった。勿論明治時代においても、

馬場辰猪とか、内村鑑三とか、英文で出版した先覚者達が何人も居たが、やはりこれらは例外と言うべきであろう。

これが戦後において、日本語の出版物と共に Books on Japan in English ものの海外需要が増加し、日本でのリプリント物が世界中に輸出され、目で見える日本のファッション雑誌が東南アジアに進出し、外国に日本の大型書店が設立されて遂に今日の逆転を迎えるに至った。

(注)通関統計上は、例外的に僅かな期間輸出超過のことがあったが、基本線としての輸出超過は今回が初めてである。

我々洋書輸入に携わるものは、ここで複雑な感懷を持つ。明治以来洋書を輸入し続け、日本学術・技術の進歩向上に陰ながら大きな貢献を果し続けた結果が、洋書輸入の停滞、輸出の急増をもたらしている。喜ぶべきであろうか、悲しむべきであろうか。

しかしながら、内容を分析すると、学術書・学術雑誌に関する限りはまだ大きく入超である。また翻訳権料などについても一方的に入超である。しかしいつかはこれらの分野でも輸出入が均衡し、かつ逆転する日が来るに違いない。もし出版物について貿易摩擦が起り得るものであれば、その時点以降にそれが起こることとなるであろう。

3. 主要国別通関実績

(表6) 昭和59年1～12月、主要国別書籍・雑誌輸入通関統計表(価額)
(単位 百万円)

国名	書 籍			雑 誌			合 計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
米	10,255	111	49	5,488	102	51	15,743	108	50
英	3,976	111	19	1,316	107	12	5,292	110	17
西独	2,542	87	12	832	89	8	3,374	88	11
仏	673	114	3	418	94	4	1,091	105	3
スス	408	79	2	328	58	3	736	68	2
蘭	907	97	4	1,392	105	13	2,299	102	7
伊	358	138	2	532	99	5	890	112	3
ソ連	91	88	1	7	6	0	98	44	0
その他	1,664	88	8	394	106	4	2,058	91	7
計	20,874	104	100	10,707	98	100	31,581	102	100

(表7) 米国昭和55～59年輸入通関統計推移表(価額)
(単位 百万円)

年次	書籍	前年 比	構成 比	雑誌	前年 比	構成 比	計	前年 比	構成 比
s55	9,271	93	40	5,144	123	47	14,415	102	42
56	8,691	94	46	4,445	86	50	13,136	91	47
57	10,010	115	47	5,420	122	49	15,430	117	48
58	9,224	92	46	5,378	99	49	14,602	95	47
59	10,255	111	49	5,488	102	51	15,743	108	50

(表8) 英国昭和55～59年輸入通関統計推移表(価額)
(単位 百万円)

年次	書籍	前年 比	構成 比	雑誌	前年 比	構成 比	計	前年 比	構成 比
s55	5,094	138	22	1,462	85	13	6,556	121	19
56	4,125	81	22	1,446	99	16	5,571	85	20
57	4,144	100	19	1,770	122	16	5,914	106	18
58	3,590	87	18	1,235	70	11	4,825	82	16
59	3,976	111	19	1,316	107	12	5,292	110	17

(表9) 西独昭和55～59年輸入通関統計推移表(価額)
(単位 百万円)

年次	書籍	前年 比	構成 比	雑誌	前年 比	構成 比	計	前年 比	構成 比
s55	3,514	137	15	1,220	139	11	4,734	138	15
56	2,550	73	13	1,024	84	12	3,574	75	13
57	3,068	120	14	928	91	9	3,996	112	12
58	2,916	95	15	935	101	9	3,851	96	12
59	2,542	87	12	832	89	8	3,374	88	11

(表10) フランス昭和55～59年輸入通関統計推移表(価額)
(単位 百万円)

年次	書籍	前年 比	構成 比	雑誌	前年 比	構成 比	計	前年 比	構成 比
s55	1,372	186	6	604	123	6	1,976	160	6
56	629	46	3	374	62	4	1,003	51	4
57	605	96	3	455	122	4	1,060	106	3
58	589	97	3	446	98	4	1,035	98	3
59	673	114	3	418	94	4	1,091	105	3

(表11) スイス昭和55～59年輸入通関統計推移表(価額)
(単位 百万円)

年次	書籍	前年 比	構成 比	雑誌	前年 比	構成 比	計	前年 比	構成 比
s55	772	93	4	375	116	3	1,147	100	3
56	660	85	3	239	64	3	899	78	3
57	594	90	3	357	149	3	951	106	3
58	515	87	2	564	158	5	1,079	113	4
59	408	79	2	328	58	3	736	68	2

(表12) オランダ昭和55～59年輸入通関統計推移表(価額)
(単位 百万円)

年次	書籍	前年 比	構成 比	雑誌	前年 比	構成 比	計	前年 比	構成 比
s55	1,111	144	5	1,344	136	12	2,455	140	7
56	672	60	4	769	57	9	1,441	59	5
57	970	144	5	1,254	163	11	2,224	154	7
58	935	96	5	1,330	106	12	2,265	102	7
59	907	97	4	1,392	105	13	2,299	102	7

[分析] 米国のシェアは、書籍・雑誌計でs53に56%であったものが、直販百科事典の輸入激減のためであろうか、s54に書籍のシェアが59%から45%にへと一挙に減少して、雑誌との合計でも11%ダウンして45%となり、以降低迷していた。それがs59に至ってようやく書籍・雑誌計で50%までに回復している。中でも米国の雑誌の輸入価額は、過去最高を記録している。しかし書籍の方は過去最高のs52の14,225百万円と比較すると、3,970百万円も低い。

英・仏・オランダは、軒並みの自国通貨安の情勢の中で輸入価額を増大させ健闘している。西独はマルク安のこともあるが、基本的にはドイツ語を読む人口が増大していないことに問題があらう。しかし現在鋭意英語出版への意欲を燃やしているので、いずれその努力が効果を発揮し始めよう。スイスは激しいアップ・ダウンの中でシェアを落しているのが気に掛る所である。

4. 主要国以外の状況

(表13) 昭和59年1～12月主要国以外で書籍・雑誌各1,000

万円以上輸入されている国の一覧表 (価額)

(単位 百万円)

国 名	書籍	雑誌	合計	前年比
韓 国	98	14	112	24
N. KOREA	146		146	99
中 国	226	82	308	123
台 湾	340		340	135
香 港	391	93	484	96
シンガポール	120	46	166	168
イ ン ド	32		32	145
デンマーク	16	54	70	117
アイルランド		21	21	175
ベルギー	34		34	179
東 ド イ ツ	29	24	53	77
ス ペ イ ン	33		33	85
オーストリア	55	10	65	77
カ ナ ダ	40		40	200
コロンビア	35		35	
ブラジル	11		11	
オーストラリア	13	18	31	282
計 17カ国	1,619	362	1,981	92
構 成 比	8%	3%	6%	-1%

(表14) 昭和55～59年近隣6カ国からの書籍・雑誌計

輸入通関統計推移表 (価額)

(単位 百万円)

国 名	s55	前年比	s56	前年比	s57	前年比	s58	前年比	s59	前年比
韓 国	224	121	268	120	251	94	473	188	112	24
NKOREA		%		%	75		147	196	146	99
中 国	203	42	248	122	291	117	251	86	308	123
台 湾	371	109	220	59	224	102	251	112	340	135
香 港	415	32	405	98	480	119	502	105	484	96
シンガポール	85	129	97	114	117	121	99	85	166	168
計	1,298	54	1,238	95	1,438	116	1,723	120	1,556	90

(注) 書籍・雑誌共、各1,000万円以上のみをピックアップした。

s55の6カ国計が、前年比54%と激減しているのは、香港9億円、中国2.8億円の激減の影響である。

[分析] (表13) は、s58と比較すると、スウェーデンとニュージーランドが抜け、代りにコロンビアとブラジル

が加わって、計17カ国と変りない。コロンビアが入ったのは、何かs59限りの大物輸入があったのであろうか。ブラジルは今後次第にこのリストに計上する機会が増えてくるような予感がある。常連であったスウェーデンが抜けたのは淋しいことである。(表14)の近隣6カ国においては、どうした訳か韓国が激減しているが、他の5カ国計は前年を上回って、ますます交流が盛んになりつつある。

5. 洋書関連商品の輸入通関価額推移とその分析

(表15) 昭和55～59年書籍・雑誌に準ずるものの輸入通関

統計推移表 (価額)

(単位 百万円)

品 名	s55	s56	s57	s58	s59	前年比	55:59
絵 本	283	206	385	537	403	75%	142%
新 聞	193	234	207	209	299	143	155
楽 譜	596	649	738	832	670	81	112
地図・海図	748	709	822	713	808	113	108
印刷書画	471	465	696	616	642	104	136
その他の印刷物	3,270	4,489	5,637	4,410	5,434	123	166
計	5,561	6,752	8,485	7,317	8,256	113	148

(表16) 昭和55～59年その他の関連商品の輸入通関統計推

移表 (価額)

(単位 百万円)

品 名	s55	s56	s57	s58	s59	前年比	55:59
地球儀	496	402	328	204	152	75	31
絵葉書等	143	204	248	408	315	77	220
カレンダー	488	533	653	557	617	111	126
写真	471	465	459	291	255	88	54
写真用フィルム等	722	674	904	722	1,003	139	139
計	2,320	2,278	2,592	2,182	2,342	107	101

[注] 1. ○絵本は、幼児用の絵本及び習画本。

○楽譜は、手書きのもの、絵入りのもの及び製本したものを含む。

○地図・海図は、その他これらに類する地理学用・気象学用又は天文学用の図を含み、印刷したものである。

[注] 2. ○地球儀は、天球儀を含み、印刷したものである。

○絵葉書は、クリスマスカードその他の絵入りカードを含み、印刷したものである。

○カレンダーは、紙製又は板紙製のもの。

○写真用フィルム (Code No.37.05-000) は、写真用の
プレート及びフィルム (現象したもの) で
あり、マイクロフィルム・マイクロフィッ
シュ・スライド等は、これに含まれる。

[分析] (表15、16) のように、長期で洋書関連商品を眺
めてみると、商品による盛衰の推移が良く分る。しかし
この関連商品表も、時代によって洋書業界との関連度が
変化するので、商品名を再検討する必要がある。

以上

海外ニュース

英国の新刊出版点数微増

1984年 (1—12月) の出版点数は、1983年の51,071点
に対し、51,555点とこれまでの最高を記録した。内訳け
は、新刊が40,246点 (前年比3.2%up)、リプリント・重
版が11,309点 (同 6.5%dn) となっている。トータルで
は前年比0.9%の微増にとどまり、“執拗で危険とされて
いた出版点数増加傾向” に歯止めがかかったことから今
回の結果は一般的に好感をもって受けとられている。

	1983	1984	
新刊	38,980	40,246	+1,266
重版・リプリント	12,091	11,309	-782
合計	51,071点	51,555点	+484点

(The Bookseller 1985年1月12日号より)

— 紀伊國屋書店提供 —

来日外人名簿

- 2月上旬 Mr. E. Newman, Regional Manager,
Mr. Mike Mckinley, Regional Manager,
Butterworth & Co. (Publishers) Ltd.,
Sevenoaks
- ” Mrs. von Hagen, President, Springer-
Verlag, New York
- ” Mr. de Kemp, Director of Marketing,
Springer-Verlag, Berlin
- 2月中旬 Mr. Hans Krushwitz, Export Director,
Akademie-Verlag, Berlin

” Mr. H. Kazimirek, President, Zentralanti-
quariat der DDR, Leipzig

書籍展示会のおしらせ

第一回ストックホルム書籍展示会

1985年5月10日—12日

The First Stockholm Book Fair

第二回エディンバラ書籍祭 1985年8月10日—25日

The 2nd Edinburgh Book Festival Charlotte Square
garden, Edinburgh

おしらせ

Wadsworth International は本年2月1日から
International Thomson Books と社名を変更し、同社が
代表する18社の代表業務をおこなうこととなりました。
(International Thomson Books 日本代表井並久枝氏
— 〒151 渋谷区代々木2—44—13 アスティラハウス
201号、電話 (03) 379—1675

ビューロー・ホソヤ (細谷愛子氏) は下記に住所を変
更しました。

〒160 新宿区坂町24—5 ストーク四谷 104号
電話 (03) 358—0692

総代理店ご案内

北尾書籍貿易 (株) ☎ (06) 203—5961
Business Trends Analysts

PREDICASTS INDUSTRY STUDIES DIVISION.
(USA) Air Cargo Only……………All Reports

(株) 国際書房 ☎ (03) 292—4951
Fred B. Rothman & Co.

Recommended Publications for Legal Research.
Com. by O.J. Miller & M.D. Schwartz.

(Supplement to Law Books Recommended for
Libraries) 1979 ed. (1984) ……4月入荷予定 ¥13,120
以下続刊

GIB

Gordon and Breach
Science Publishers

New York • London •
Paris • Montreux • Tokyo

最新刊ジャーナル

ロボット時代をリードする話題の新刊ジャーナル

.....今春創刊.....

国際生命科学誌

精密機械・医用工学

メカ・オブト・エレクトロニクス

**Precision Machinery, Medical Engineering
and Mechaoptoelectronics**

An International Journal of Life Science

編集主幹：舟久保熙康 東京大学工学部精密機械工学科

共編集者：柳田 博明 東京大学工学部工業化学科

編集者：述内 順平（東京工業大学大学院総合理工学研究科）吉川弘之・大園成夫・木村文彦
・土肥健純（東京大学工学部精密機械工学科）Ronald M. Davis (U.of College, London)
Fritz Paschke (IAEET, Vienna) Thomas B. Sheridan (MIT) Koichi Masubuchi
(MIT) David J. Edell (MIT)

ロボットは、機械設計・製作、コンピュータ制御、アクチュエータ、視・触覚認識、遠隔、自動制御操作等を含む技術の総合からできあがっている。ロボットは単に量産、品質管理、生産費の縮小等に使える道具として大切であるのみではなく、より小さく、より機能的な、より知能的な、より信頼性の高い機械システムを現実のものとする新しい技術時代に向っての第一歩であることに重大な意義がある。より端的に言うならば、ロボットは細分化した専門領域を包んだ橋をかけることの第一歩であるとも言えよう。本誌はこんな視点に立ちロボットに関する論文を幅広く掲載する。

本学術誌の対象：セラミックス、有機・生物材料等を含む機能性材料、化学・生物反応、生体要素、心理的・生理的現象の解析。

■発行頻度：4 Numbers/Vol.

■予約価：¥126,000/Vol.

■ページ数：平均96ページ/No.

■送付方法：ASP

●詳細リーフレット●無料サンプルコピーは下記宛へご用命ください。

総代理店

洋販(日本洋書販売配給株式会社) 教育事業部

〒160 東京都新宿区大久保3丁目14-9 TEL.(03)208-0181

昭和 60 年 3 月

通巻第 215 号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル603号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329